タンザニアにおけるボンデイ族の儀礼
――女性だけの結婚式前夜祭

高 村 美也子　　文化人類学専攻　後期課程 2 年

はじめに

タンザニア北東部に居住するボンデイ族には，女性だけが参加できる結婚前夜式儀礼がある。ボンデイ族の人々は，イスラームを信仰している人々が半数ほどいるため，ラマダーン前の 8 月から 9 月（2007年度）にかけて，結婚式が集中した。

この結婚前夜祭の全体像をつかむため， 8 月にタンザニアのタンガ州ムヘザ市ムクジ村へ向かった。

1．ボンデイ族居住地域の特色

ボンデイ族は，タンザニア北東部のタンガ州ムヘザ市を中心に，ムクジ村，キバンダ村，ムザンバラウニ村などに居住する。この地域は，北がケニア国境に隣接し，東はインド洋に接している。

母語であるボンデイ語の話者数は，約 8 万人[1)]（1987）と言われている。宗教は，キリスト教，イスラームが半々といわれており，土着宗教も同時に信仰している者もいる。

ムヘザ市は，商業が盛んな地域であり，各地方から様々な人々が訪れる町である。よって，多部族が集まる地域である。

ムクジ村は，ボンデイ族が主に居住する村で，人口が7000人強[2)]である。ムクジ村の住民は，殆どがボンデイ族の人々である。他は，同じタンガ州のサンバー族，ジグア族や，タンザニア南部のマコンデ族，北部のマサイ族，中央部のゴゴ族などがいる。アラブ人の侵入，17世紀後半のドイツ人宣教師の到来により，隣のパンガーニ県と結ぶ道路が存在するため，他部族との接触は頻繁にある。

2．ボンデイ族の前夜祭―― *Wiiya* ――（2007年 8 月ムクジ村の事例）

2–1．前夜祭の流れ

結婚前夜祭の *Wiiya* とは，ボンデイ語で「楽しみ，唄，結婚」という意味であり，複数の意味を持つ。現在は，イスラームやキリスト教が入ってきたため，正式な「結婚式」は，イスラーム方式及びキリスト教会において挙式が行われる。しかし，この結婚前夜祭は，挙式の前日または一週間前に行われ，どちらの宗教にも属さない伝統行事である。

前夜祭は，一連行為は表 1 の通りである。開催日は異なるが，新郎側，新婦側それぞれおこなう。開催場所は，新郎又は新婦の各家の前である。まず，参加女性達が，薪，水または贈り物を頭上に乗せて来場する。その際，ボンデイ語の唄を歌いながら来場する。会場にすでに来場していた歌い手によって，来客の喜びの唄で迎え入れられる。薪や水は一定の場所に置か

参加者たちが水を頭上に乗せ来場

トウモロコシ搗き

表１　結婚式前夜祭 *Wiiya* の流れ

時間	行事項目	説明	参加者性別	使用言語
前夜祭 正午	村の女性達が薪又は水を頭に乗せて来場	ボンデイ語の唄を歌いながら来場	既婚女性	ボンデイ語
14時頃	音楽開始 太鼓演奏，ターラブ[3]	参加者たちが音楽に合わせ踊りだす	太鼓演奏者：男性 踊る人々：成人女性	ボンデイ語 少スワヒリ語
15時頃	トウモロコシ搗き（*Twanga*）	太鼓や笛に合わせトウモロコシを搗き，その周りを女性達が踊る	トウモロコシ搗き，踊り子達：成人女性	ボンデイ語
18時頃	老女（*Bibi*）による訓示	老女は歌を唄うように訓示を語る 女性達は，老女を囲み訓示を聞く	訓示：老女 壁の輪：成人女性	ボンデイ語
	性交の体位	トウモロコシを使用し，性交の体位を見せる	中年の女性	ボンデイ語
19時頃	経産婦（*Mwenye mwana*）による踊り a. 衣服着用で性交擬似行為 b. 下着姿（以前は全裸）で踊る c. 布を体に巻きつけ踊る	外部から切り離すため参加女性達が輪になって壁を作る 太鼓演奏者も輪の外となる	儀礼行為者：経産婦 壁の輪：成人女性 （男性，子供を排除）	ボンデイ語
20時頃	会食 終了	参加者全員に豆とトウモロコシの料理をもてなす	成人婚女性とその子供たち	ボンデイ語 少スワヒリ語
22時頃	音楽再開 翌日　結婚式へ続く	休憩後，太鼓及びカセットテープのターラブの音楽に合わせて翌朝まで踊る	年齢性別無関係 男女，子供	ボンデイ語 少スワヒリ語
結婚式 正午～	結婚（イスラーム）の申し込み 結婚成立	新郎，新婦が待つ部屋へ入り，結婚を申し込み承諾をもらう	新郎，新婦，新郎新婦の親族	スワヒリ語

父方が上側へ，母方が下側へ座り擬似性交

経産婦による踊り

れ，贈り物は新郎または新婦の親族に渡される。

参加者が多くなると，トウモロコシ搗き（*twanga*）が太鼓と唄に合わせて行われる。その際に歌う唄もボンデイ語であり，トウモロコシ搗きという行動とその周囲を参加者が回りながら踊ることにより，その場に連帯感を生み出す。

このトウモロコシ搗きが終わると，新郎又は新婦の母方と父方の親族の老女が，ボンデイ語で教訓を語る。参加者は，その老女を囲みながら，両手をぐるぐると回し，頭を小刻みに回す。そして，老女がボンデイ語で，夫婦に関する教訓を語る。その語りを聞きながら，参加者たちは語りを輪唱する。若い女性は，ほとんどボンデイ語を使用しない年代であるため，その訓示がどの程度理解できているが疑問であるが，それでも彼女たちは輪唱をしていた。

老女の訓示が終わると，家の中に入り，父方と母方の親族の中年女性が登場する。父方は男性役として上に位置し，母方は女性役として下側に位置を取る。トウモロコシを使用して，擬似性交を行う。服を着用したままで行うが，数通りの性交の体位を見せるものであった。外部に見られてはならないため，玄関口で行われ，女性によって厳重に囲まれる。この時は，太鼓

演奏者でさえ近づくことは出来ず，太鼓なしで歌い手の唄のみで施された。

家内で行われた擬似性行為の後，経産婦の踊り（*mwenye mwana*）が行われる。この踊りも男性及び未産女性や子供たちに見られてはならないため，女性だけによる壁を作る。男性及び子供を排除し，成人女性だけの世界を作り出す。この踊りの際には，５人から６人の20代から40才ほどの女性が登場する。経産婦は下着姿（ブラジャー及びパンティ，またはパンティのみ）で登場し，踊りまくる。この踊りはボンデイ語でキブングブング（*kibungubungu*）と呼ばれ，腰を小刻みに激しく踊るものである。踊りが激しく魅力的な女性には，おひねりも渡される。結婚前夜祭終始，常におひねりが手渡されているが，この *mwenye mwana* の踊りでは，それまで以上におひねりが手渡される。踊り子たちは，このおひねり欲しさに激しく且つ魅力的に踊り競い合うのである。太鼓演奏者の叩き方も一層激しくなり，女性たちの興奮を盛り上げている。

2–2. 結婚式前夜祭の唄　Mamemadebwele さんより

ボンデイ族の母語はボンデイ語であるが，近年，タンザニアの国家語政策により，国家語であるスワヒリ語が浸透した。このムクジ村においても，スワヒリ語が主流の言語になりつつある。現在20歳代の若者は，ボンデイ語を理解することが難しい。日常においてスワヒリ語を使用している。しかし，表１からでも分かるように，結婚式前夜祭では，ボンデイ語の唄を使用している。ボンデイ語は正書法が確立されていないため，この唄は口頭で伝承されている。

歌い手であるマメマデブウェレさんより，唄を教えていただいた。下記の唄は，マメマデブウェレさんが継承した唄である。各歌い手は，異なった唄を継承している。彼女は高齢であり，文盲であるため，口頭で歌っていただき，それを文字化した。この唄の聞き取りは第一段階であるため，唄の意味，歌い方等は更に調査する必要がある。

中央 Mamemadebwele さん

来客歓迎の唄

Tanga ndei kweza wageni tikawakauwe
Tikawakauwe
Mame nane
Mgeni na mwenye
Tikawakauwe watendavyo

脱穀最中の唄

1 Gahuwee x2
Daonada ude
Mami ya mwai ete
Tide tide tegae tongoo x2
Changwa cha ndima mame mamimo
Oh aee e

2 Kisimika tui wana waiya
Kisimika tui hai yaya eee hauba ete x 2

3 Mtwangieni mtwangieni mwana mwinyi haiyaa X2
Tati yakwe tati yakwe kaita shule hayaa
Tati yakwe kuvuga haiyaa
Mami yakwe mami yakwe
Nkada kuvuga haiyaa
A ndima ukimwe
Nkana mkunde nkaiyaa

4 Timtwangie x2
Nka mnamna x2
Mami ya mwai luvu akada madunda munyi munyi inga bugo x2

5 Ameambea mame kuo
Mantungo huohuo
Ametiaone
Maharagwe tia
Siku ya kuoza hayaone hiyo huohuo
Haina mantungo huohuo

6 Simbe mkucha simbe mkucha
Nimumyi sokoa nimunyi sokoa
Mame simbe mkucha ni munyi sokoa

7 Kagoma kaiyaa na ahee ahee ee kagoma kaiyaa
Kumbe mame kagoma ngoma
Mwanawe ahee ee

喜びの唄

脱穀後，周りに散ったトウモロコシの屑を片つけるとき

Maa mkuu mhagiaza enga mame mhagiaza X2
Enga mame mhagiaza ee enga mame mhagiaza
Hagio yee la mkuku
Hagio mame nane.

擬似性行為の唄（新婦又は新婦の父方と母方の小母が真ん中で行う）

Mazi nkundu ya kingii mwana X2
Ndamae ya mama ngo X2

経産婦の踊りの唄

Inyonwa mwenye mwana
Kangu ni kadodo uyu mwana nkimvyaa nani?
Magaagaa nkambu

中間挿入唄

Memeza mameza ntangu mwanangu
Memeza se mwaya
Memeza uge wahindi
Na sinya kizsungu kagona nkakunda
Msimba nalawe eeehe
Msimba nalawe.

3．まとめ

上述の唄から分かるように，前夜祭で使用される唄や語りは，スワヒリ語ではなくボンデイ語であった。しかし，翌日の結婚式（イスラーム式）では，結婚式成立時のイスラーム教師による祈り（アラビア語）以外はスワヒリ語で行われていた。若年層においては，スワヒリ語の浸透が広まり，上記の唄の意味もどれほど理解できているか定かではない。しかし，この結婚前夜祭では，これほどにもボンデイ語が使用されているということから，この儀礼の重要性が窺われる。

女性のみが参加することができ，円になれるのは，既婚または出産経験者であり，円の内側に入れるのは親族の出産経験者だけである。そして，円の中心で教訓を語ることが出来るのは，親族の老女である。このように円を作ることにより，女性のみの世界を作り出し，女性の結束を高めている。

よって，この結婚前夜祭 *Wiiya* によって，女性たちは，ボンデイ族であり，経験をつんだ女性であるというアイデンティティを強めていると考えることが出来るのではないだろうか。

注

1）Ethnologue.com（2007） 但し国勢調査には民族語の項目はないため，正確な数は確認できない。
2）Tanzania Census 2002,（2004）
3）アラブ風スワヒリ音楽（スワヒリ語）

参考文献

Willis, Justin,（1992）“The Makings of a Tribe: Bondei Identities and Histories”, *Journal of African History 33*, Cambridge University Press, pp. 191–208.
高村美也子，（2006）『スワヒリ語圏ボンデイ族のことわざに関する言語人類学的研究』，名古屋大学提出論文
中村亮，（2007）「スワヒリ海岸キルワ島の男子割礼の唄」，編集・篠田，知和基・比較神話学研究組織（GRMC），『神話・象徴・文化』Ⅲ，楽瑯書院，pp. 185–206.

参考資料

Tanzania Census 2002,（2004）Volume IV MUHEZA Central Census Office National Bureau of Statistics President’s Office Planning and Privitization Dar es Salaam
——— (2003), General Report Central Census Office National Bureau of Statistics President’s Office Planning and Privitization Dar es Salaam

インターネット資料

Language of Tanzania, http://www.ethnologue.com/show_map.asp?name=TZ&seq=20